

なぜを問い続ける教師を目指す ー今を省み経験を思い出しつつー

台湾銘傳大学応用日本語学科
羅曉勤

1. はじめに



2. 学習者時代を振り返った際

このとき、どんな
文型を使ったら
いいのか？どう
言えば、いいの

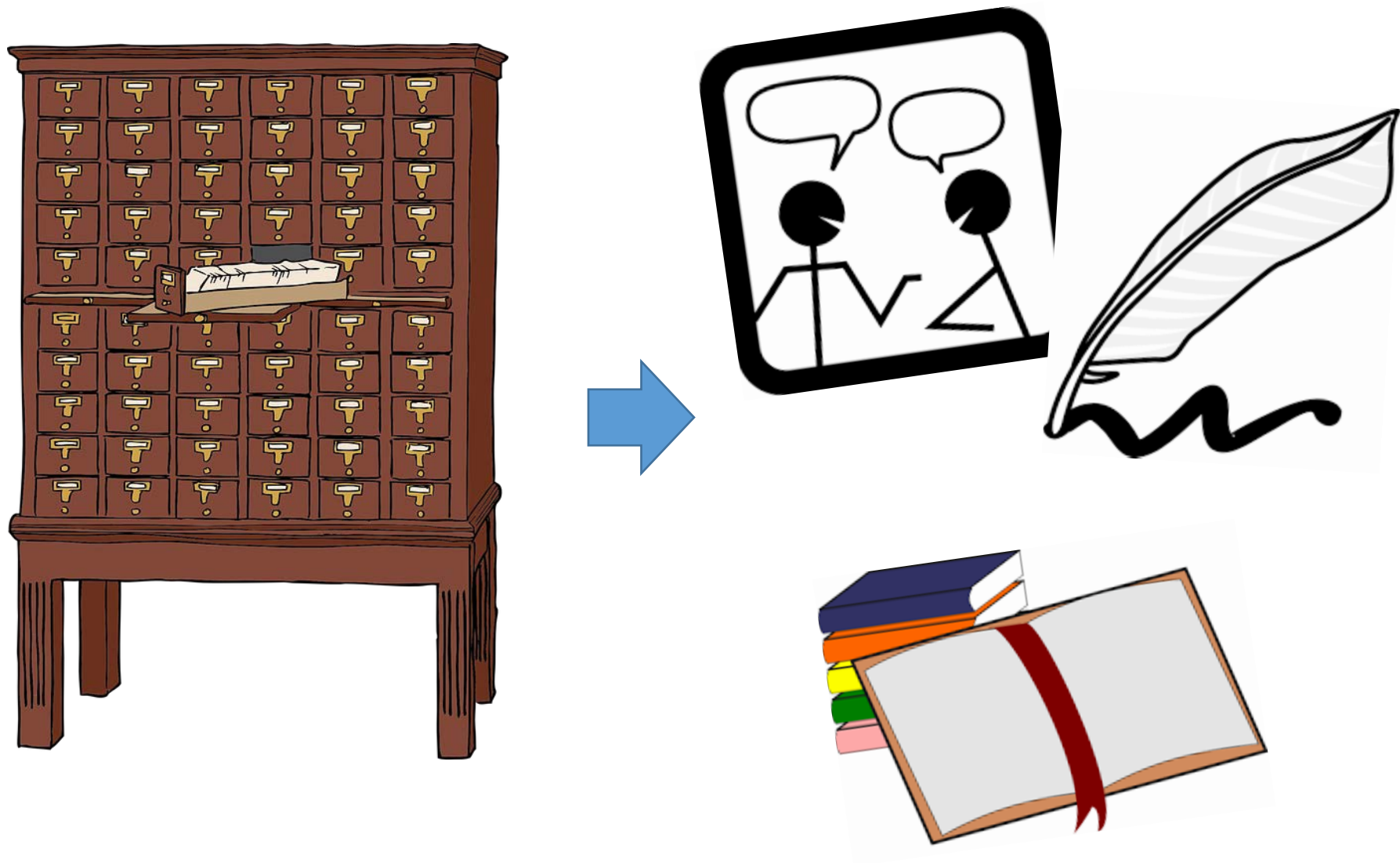
このテーマ、
どう書けばよ
いのか？また、
赤がいっぱい

動詞の第1
グループ？
五段動詞？
形容動詞？
な形容詞？

単語・文型を
積み上げる
読解授業



2. 学習者時代を振り返った際





3 日本語教師としての実践の歩み：会話教師

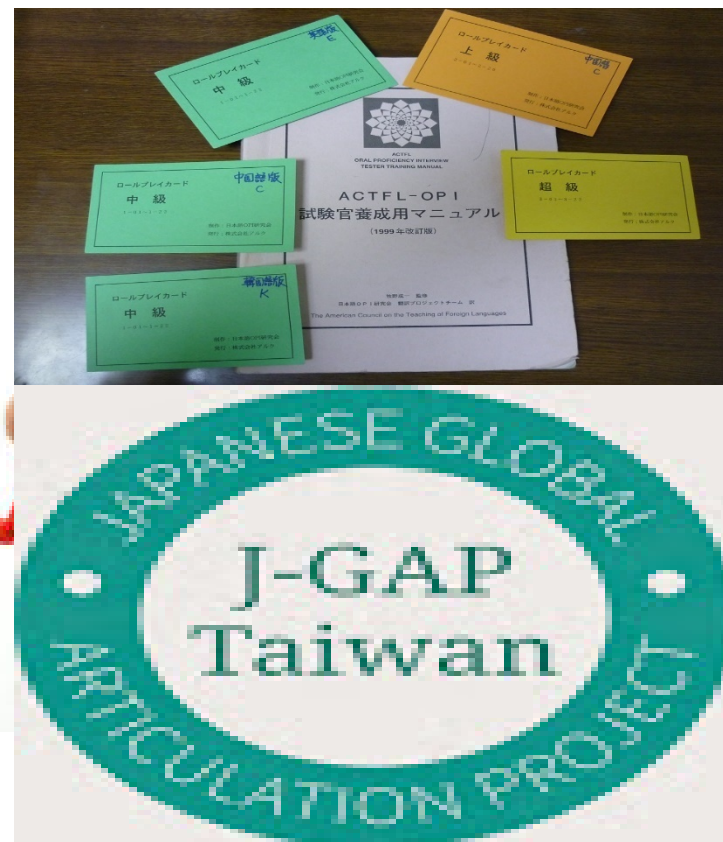
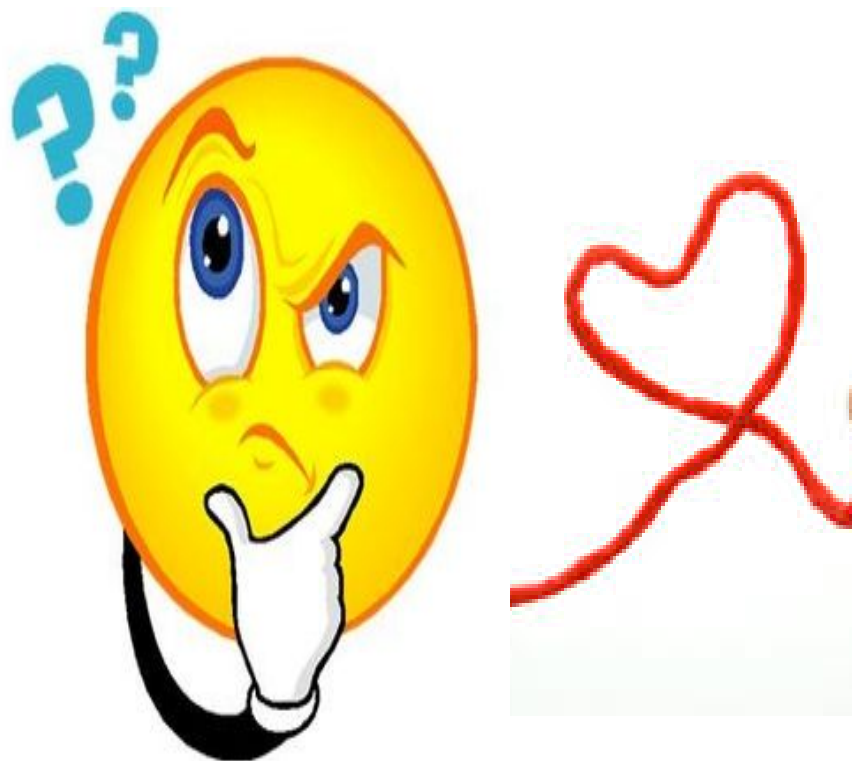
到達目標の
曖昧さ

本当に日本語会話
能力の養成になっ
ているか

会話能力評
価時の矛盾

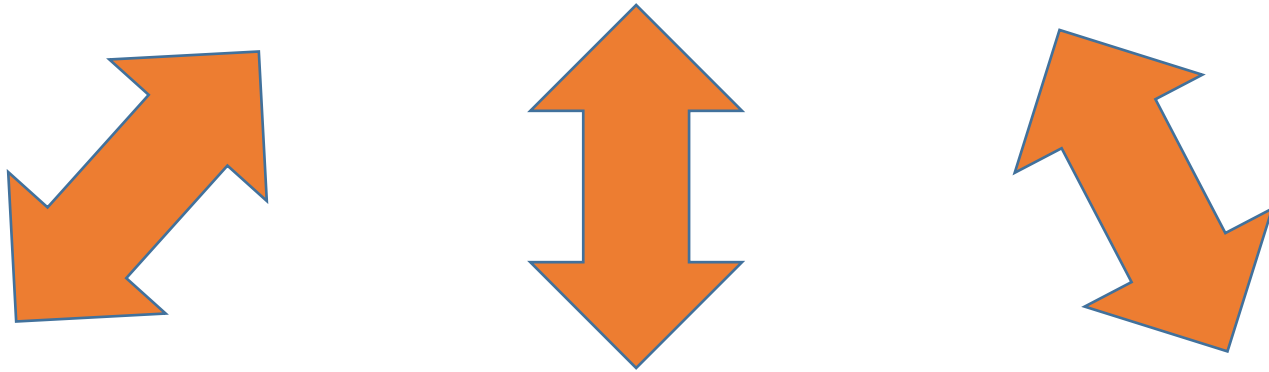


転機: 2012年12月のOPI試験官養成 J-GAP TAIWANへの参加



気づき：教科書への気づき

- ・文脈化の欠如（高木2004；川口2005）



文型のための
授業活動

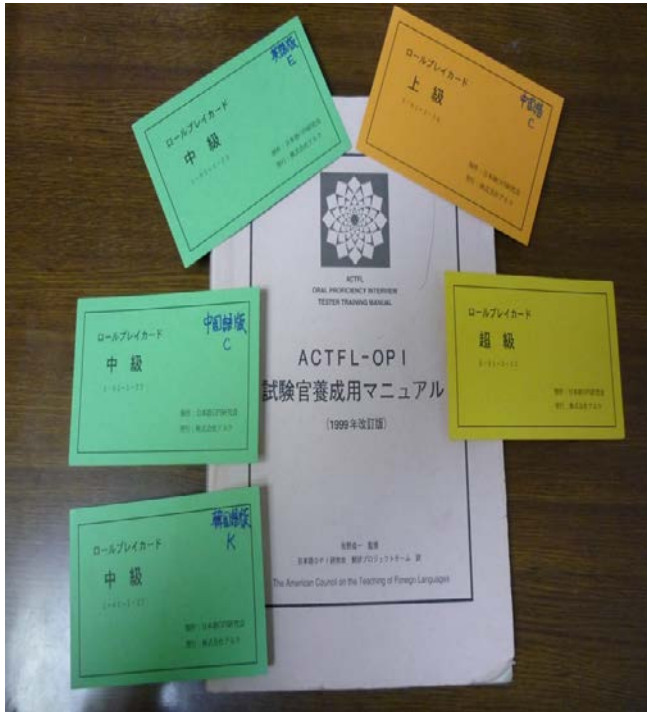


文型のための
評価活動



日本語で話せない
日本語学習者

ACTFL-OPI



- 実生活で起こりうる生活状況で
- どれだけ効果的に
- 適切に言語を使うことができるか
- 言語運用能力を
- 評価する手法

Can-Do Statementの重要性

省み: その1

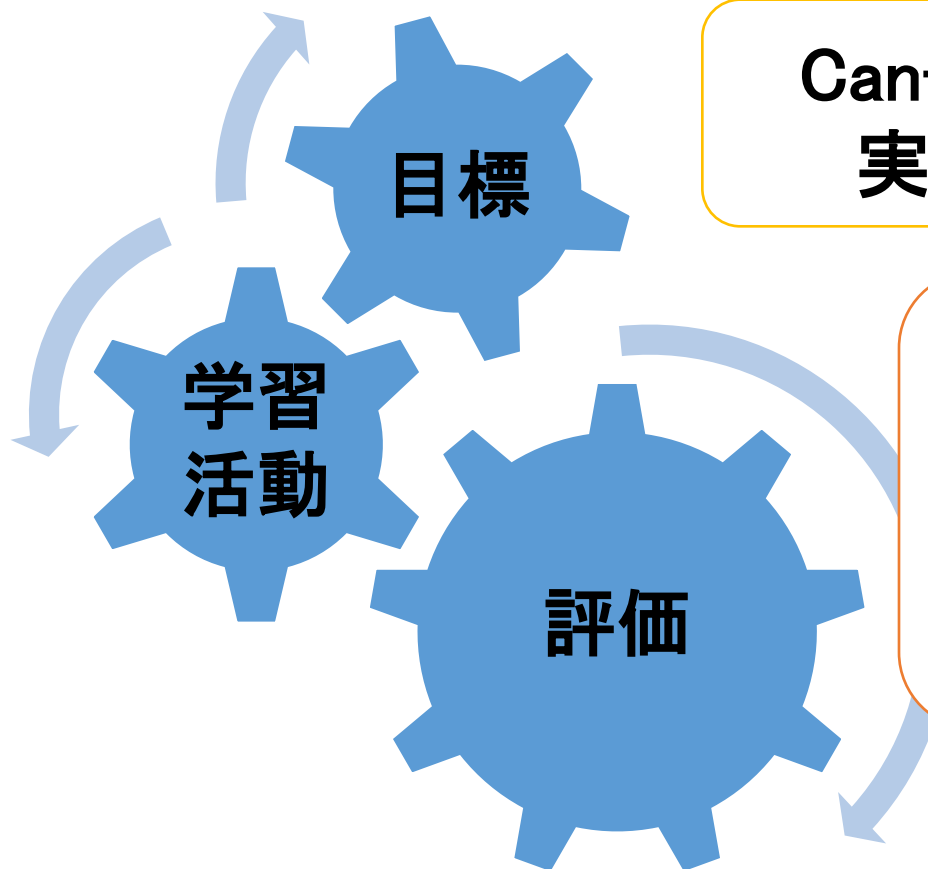
ある学習内容を勉強すると、何ができるようになるのか

Can-Do Statementの重要性





省み: その2



**Can-Do Statement:
実生活への注目**

**台湾人学習者が
台湾で遭遇しやすい
実生活での日本
語使用場面**



ACTFL-OPIによる学習目標への再考: その2レベルの目標

コース プラン	再考され たレベル	再考されたレベルの目標
初級 (一年生)	初中～ 中下	挨拶などができる 簡単な会話ができる
初中級 (二年生)	中下～ 上下	毎日の生活で必要な会話ができる 日本語話者の友達作りのためと簡単にやり取りができる ある話題について簡単に意見を言うことができる

表1 再編成された「日本語会話」のシラバス

冊・ 課	学習内容	導入文型	遂行課題
Ⅱ L11	動詞化 可能形 変化	わたしはピアノが弾けます ゆうべよく寝られませんでした 台湾の水道の水はそのまま飲めません この窓から海が見えます	①ワーキングホリデーの仲間にアルバイトの紹介ができる。 ②短期留学生・姉妹校からの交流生と旅行計画を立てることができる。
Ⅱ L12	仮定表現	一生懸命勉強すれば、上手になります 山なら、富士山がいいです 友達が多ければ多いほどいいです	① <u>ロト6の夢。</u> ② <u>ほしいものの条件を言うことができる。</u> ③日本人短期留学生の生活についてアドバイスすることができる。

実践のやり方

- 課題提示（現時点の能力の引き出し）
- 新しい表現の導入
- グループによる課題作成
- ロールプレイ・発表（暗記活動）
- 評価活動
（総合的なタスク、機能、正確さ、流暢さ、やり取り）

学習者の声

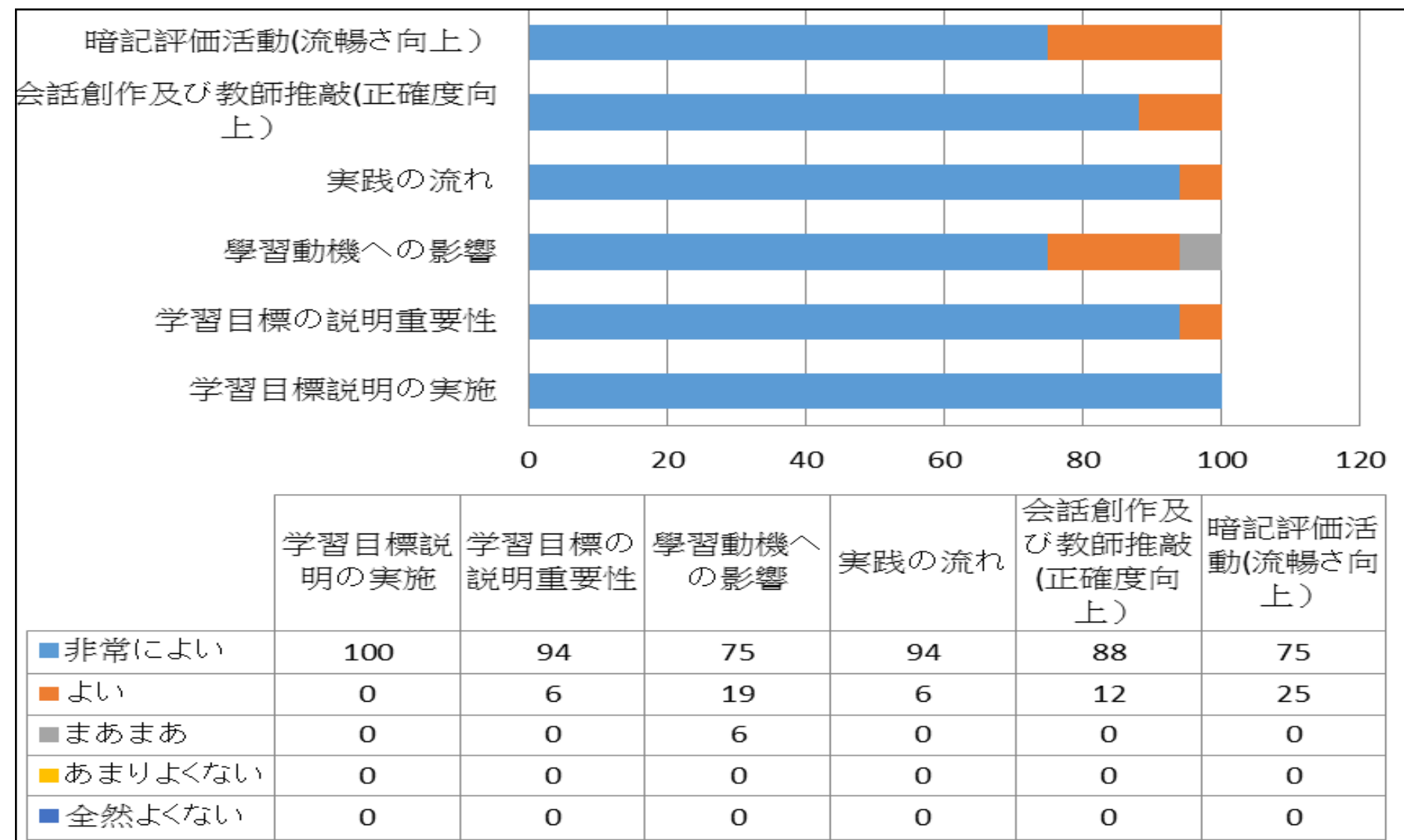


図1 学習者からのフィードバック

3 日本語教師としての実践の歩み：作文教師

文章構成
力の欠如

授業中での
読者不在

推敲前後
の成果物
の共有の
欠如



ピア・ラーニングの導入



教師の悩み

何のために書
かせたのか



転機：2012年12月のOPI試験官養成 J-GAP TAIWANへの参加



教師としての気づき

何のために書
かせたのか

作文授業を
通して、どの
ような日本語
人材を育成
したいのか



気づき

- “型”の指導への反省
- 「何を、なぜ、どのように」への思慮不足への反省

教師としての課題

- 作文授業を通して、どのような日本語人材を育成していきたいのかを明らかにしない限りでは、何を教えるべきなのか、どう教えるのかも見えてこない



打造創新企業 從培育創新人才開始

どんな(日本語)人材育成

台湾(『教育部人材培育白皮書』)でも
日本(の高等教育)でも、
次世代人材への育成の重要性の提唱



次世代人材とは

- Harvey et al. (2002)やSpencer & Spencer(1993)
→就業力、コンピテンシー
- 2013年12月出版された『教育部人材培育白皮書』
- 劉孟奇・邱俊榮・胡均立(2006)
- 佐藤洋一・有田弘樹(2014)

次世代人材とは

- 「問題発見・問題解決力」
 - 「協働力」
 - 「コミュニケーション力」
 - 「多様な観点から論理的な思考力」
- +
- 「外国語力(台湾)」

台湾における次世代日本語人材とは

- 「問題発見・問題解決力」、
- 「協働力」、
- 「コミュニケーション力」、
- 「多様な観点から論理的な思考力」、
- 「外国語力=日本語」

目指すことは

- 自分の教育実践で、次世代人材育成、すなわち、実践を通して、学習者に、日本語学習を通して（日本語学習をしながら）、「問題発見・問題解決力」、「協働力」、「コミュニケーション力」、「多様な観点から論理的な思考力」を育成していくことを“目指す”。

作文での実践：問題発見・解決力育成 「よりよい生活環境を作ろう！」

- 学習者に潜在する身体感覚を引き出すために、学習者を2人1組にし、交互にマスクで目隠しをしてキャンパス内を15分程度歩く
- その身体感覚に着目して感じたものをより多くの語彙でできる限り書き出させる。
- 書きだした語彙から、重要な表現を三つ選択、辞書の意味と自分の思い感じた意味を書き出す
- 日常生活の中で、常に同じような感覚で生活している”人たち“をグループで話し合う
- その人たちのために、生活環境をよりよくするにはどうすべきかを、その人たちを取り巻く社会的・環境的な状況を示す情報や証拠を収集
- 収集した資料を分類した上で、アドバイス(意見や申告)提出
- 文章作成



不便

恥ずかしい

新鮮

わくわく

期待

不安

怖い

危険

恐怖

感情

感情

感情

感情

体感覚

問題発見力の養成について

- 目の不自由者
- 片足の不自由者
- 大学の新入生
- 大学の4年生(新卒生)
- 外国人観光客(台北駅の言語表示)
- 売り場にいる子供
- 公園の安全性(子供の視点)
- 母乳哺育の母親
- 外国人留学生(キャンパス生活;言語表示)
- 老人(桃園駅—台湾大学病院)

学習者の声

肯定的

「目隠しという体験を通して、対象となるテーマを考えるのは面白い」

「皆それぞれが、対象とする人たちの目線で、社会環境の問題点を見つけてくるのはいいと思う。一気にいろいろな資料を集めることができた」

「グループ活動を通して問題点の分類や分析をしていくのは新鮮である

否定的

「授業の作業量が多く少し大変でした」

「いろいろなことを考えなければならないので、ちょっと大変でした」

教師ができること

- 教師として常に自分の現場や学**習者と真摯に向き合う**
- 時代や環境に即した**新しい知識や考え**を身に付ける
- より**多く情報**に接することが必要だと考える

• 参考文献

- (1)川口義一(2005)「日本語教科書における「会話」とは何かーある「本文会話」批判ー」『早稲田大学日本語教育研究』,6,1-13,早稲田大学大学院日本語教育研究科
- (2)国際交流基金(2013)『JF日本語教育スタンダード2010(第三版)』国際交流基金
- (3)佐藤洋一・有田弘樹(2014)「随筆教材のテキスト形式を生かす「習得・活用」「批判」ー「自立・協働・創造」につながる授業の開発ー」『愛知教育大学研究報告:教育科学編』No.63,163-171,愛知教育大学
- (4)嶋田和子(2008)「目指せ、日本語今日視力アップ！ーOPIでいきいき授業」ひつじ書房
- (5)高木美嘉(2004)「「会話」という待遇コミュニケーションの仕組みー会話教育の基礎理論の考察ー」『待遇コミュニケーション研究』2,17-32,早稲田大学待遇コミュニケーション研究会
- (6)田中博之(2009)『子どもの総合学力を育てるー学力調査を活かした授業づくりと学校経営』ミネルヴァ書房
- (7)當作靖彦(2013)『NIPPON 3.0の処方箋』講談社
- (8)牧野成一監修(1999)「ACTFL-OPI試験官養成用マニュアル1999年改訂版」日本語OPI研究会
- (9)羅曉勤(2014)「台湾日常生活場面における大学生日本語使用場面の実態調査ー中上級会話授業の学習目標を設定するためにー」Sydney International Conference on Japanese Language Education 2014,UNSW Sydney:Australia,[https://icjle2014.arts.unsw.edu.au/jp/program?id=809&t=ppid,\(NSC102-2410-H-130-099-\)](https://icjle2014.arts.unsw.edu.au/jp/program?id=809&t=ppid,(NSC102-2410-H-130-099-))
- (10)洪瑞斌(2013)「培養青年之生涯韌力:就業力外的的另一章」『電子報月刊/就業安全 半年刊』中華民國102年第2期,http://www2.evta.gov.tw/safe/docs/safe95/userplane/half_year_display.asp?menu_id=3&submenu_id=545&ap_id=1875
- (11)劉孟奇・邱俊榮・胡均立(2006)『大專畢業生就業力調查報告』青輔會

ご清聴、ありがとうございます



103年度台湾科技部の研究補助の元で実施